

江崎 貴大 議員

無会派



問 スタートアップの推進事業は

答 引き続き創業支援事業を続ける

問 県のスタートアップ推進事業に対する市長の考えは。

答 (市長) 引き続き、創業支援事業を継続する。

問 地域課題の整理と深堀りは。

答 (建設部長) アンケート調査や企業訪問等を行う。

問 市民からのニーズをどのように把握しているか。

答 市ホームページ、問合せフォームから把握。

問 市役所内での課題解決は。

答 (総務部長) 所属部長に報告し、幹部で対応を検討。

問 PFI法に基づく民間提案への対応は。

答 (建設部長) 民間提案はない。ある場合、内容に応じて、施設担当部局または全庁横断的に検討。

問 スタートアップとの交流は。

答 本市指定金融機関が、交流イベントを開催。ネットワークを通じて交流機会へと繋げる。

問 ステーション Ai への入居の考えは。

答 入居費用に対する効果が期待できる状況になれば検討。

問 ※AICHI CO-CREATION STARTUP PROGRAM (あいちコクリエーションスタートアッププログラム) への参加は。

答 参加している地域パートナーのネットワークを活用、近隣市町村の状況を見ながら商工会と共に検討。

※県内の自治体が、地域課題解決に向けてスタートアップと共に主体的に取り組む事業共創プログラム



▲ステーション Ai (名古屋市鶴舞)

問 河川の水害対策は

答 河川巡視などで監視する

問 高潮の尾張大橋付近における通行止めや土嚢設置の決定機関は。

答 (総務部長) 関係する国、県、市町、警察署で構成される木曾三川下流部緊急対策検討会。

問 通行止めの周知は。

答 (建設部長) 通行止め決定で、報道、関係機関ホームページ、道路情報板、自治体の防災行政無線等を通じて知らせる。

問 アクリルパネルの劣化の想定は。

答 耐用年数は非常に長い。

問 今後の対策は。

答 暫定対策を検討。

問 木曾川河床の上昇の変移は。

答 流量に対する断面が確保されている。

問 国への働きかけは。

答 (土木部長) 浚渫を事あるごとに、市長から国へ要望している。

問 浚渫した土砂の活用を。

答 タイミング等が整えば、木曾川下流河川事務所と調整。

問 今後の道路整備を見越したトラックターミナルの建設・誘致の考えは。

答 名古屋港を中心に、広域的な物流や新規企業立地を推進する必要がある。



▲大型土のう設置訓練 (令和5年5月)